

令和 6年度（5年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	心豊かで未来を築く人を育むまち	評価 担当	局名	教育局
	政策	社会を生き抜く力を育む教育の充実		課(室)名	少年育成センター
	施策	青少年の健全育成		電話番号	087-839-2635
	基本事業	青少年健全育成の推進		事業実施主体	市
	事務事業	非行防止活動事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	少年非行の早期発見・早期指導等を行い、青少年健全育成・非行防止活動の推進を図る。				
6年度概要	補導活動を充実させ、不良行為少年の補導人数減少に繋げる。 また、市内の小学4年生を対象に実施していた情報モラル出前授業を、令和2年度からインターネット利用の低年齢化に対応するため、小学3年生まで拡大して実施し、保護者にも啓発用パンフレットを配布して、インターネット利用に係るトラブルの未然防止を図る。 また、香川大学サイバー防犯ボランティア「SETOKU」と連携し、小学3年生を対象とした「インターネットセキュリティ」を実施した。				
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）		

【事業の目的】

対象（何を）	市内の少年、高松市立小学3、4年生（情報モラル教育に関する事業の対象）
意図（どのような状態にしたいか）	少年非行の早期発見・早期指導等を行うことにより、少年非行の減少を図るとともに、少年のインターネット利用に係るトラブルの未然防止を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
① 年間延べ補導回数	回	1,270	1,606	1,727	0	2,258
② 情報モラル出前授業参加人数	人	2,978	3,147	4,187	0	3,616

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	少年人口千人当たりの補導人数	人	目標値	4.7	4.6	4.5	0	4.5
成果指標①	少年人口千人当たりの補導人数		実績値	7.7	9	8.3		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 学校及び関係機関・団体等との連携を密にしながら、より効果的で温かい巡視・補導活動に努めた。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限の緩和等に伴い、児童生徒の外出機会が増加したことも一因となり、補導人数が増加したため、目標を達成することができなかった。 							(達成度) 15.6% 5点
成果指標②	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	児童の情報モラルについての理解度	%	目標値	95	94	97	0	97
	児童の情報モラルについての理解度		実績値	92.6	90.2	93.4		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 児童の実態に応じ、学校のニーズに合った内容となるよう努めた結果、ある程度目標を達成できた。 							(達成度) 96.3% 33点

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	円	44,922	45,424	47,141	50,108
（事業費）	円	22,272	22,972	24,560	27,527
（職員人件費）	円	22,650	22,452	22,581	22,581

【評価】

評価ランク（A～D）	C	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
関係団体、各地域と連携して補導や万引き防止キャンペーンなど広報啓発活動の充実を図っている。 また、小学校3、4年生を対象とした情報モラル出前授業を実施することで、インターネットに係るネット・ゲーム依存、トラブルの未然防止を図るとともに、メディアを賢く（スマートに）使える子どもたちを育てるという趣旨で「スマート・メディア事業」を実施している。 また、香川大学サイバー防犯ボランティアSETOKUと連携して「インターネットセキュリティ教室」を開催し、好評のうちに終わることができた。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
関係団体、各地域と連携を図り、引き続き、地域で子どもを見守っていくとともに万引き防止など少年非行の早期防止に努める。情報モラル教育については、出前授業を実施するとともに、児童生徒自身がインターネットやゲーム機等の利用について考え、自己管理能力の育成に繋げる。 また、学生サイバー防犯ボランティアとの連携による情報モラル教育の充実や、学生防犯パトロール隊と地域の見守り活動や巡視活動をしている市民会議や育連協の地域団体とをつなぐことにより、持続可能な見守り活動、巡視活動の在り方を模索していく。			